

笑顔と希望



～和坂校区まちづくり計画書～

計画期間 (2017年～2026年)



あなたとわたしで創る、住み続けたいまち 和坂

～笑顔と希望のあふれる我がまちへ～

和坂校区まちづくり協議会
会長 茶谷 紀元

新しい「和坂校区まちづくり計画」に向けて平成28年2月29日、校区の方々にお集まりいただき、新しく企画部がスタートしました。

この企画部には、明石市役所の小林久美子様「明石コミュニティ創造協会」の仲宗根貴彦様にも参加していただき、各自治会・町内会から11名の方、会長・事務局員2名も参加しています。

3月末までの1年間に30回の会合を開催し、これからの和坂校区の新しい「まちづくり」についての検討を重ねてきました。

その間には、市内の先進地区への視察と他校区の資料・情報の収集もしっかりと行い、委員による情報を共有する場も持ちました。

和坂校区住民への「住民アンケート」を28年6月に実施し、9月にはその集計結果を各戸配布しました。アンケート結果から今後の課題について意見集約を行いました。

また、企画部の活動をはじめ今後のまちづくりについては広報誌「わくわくわか第3号」を発行し、住民皆様へのご理解を得るように努めました。

企画部案として、10年先を見据えた「和坂校区まちづくりビジョン」を策定し、全体会で検討を経て決定しました。

和坂にお住いの皆様の、お一人・お一人の声を大切にし、「10年先・20年先もずっと住み続けたいまち和坂」を目指して、校区の皆様と共に前進していけるように、ご参加・ご支援・ご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。

もくじ

まちづくりへの思い	1P
校区の概要	3P
歴史沿革	5P
まちづくり協議会の成り立ち	7P
組織図	9P
ビジョン図	11P
生活・安全部	12P
環境・衛生部	13P
健康・福祉部	14P
文化・交流部	15P
広報部	16P
座談会	17P

校区の概要



●和坂校区の誕生

市立鳥羽小学校から分離して、昭和59年4月に開設された市立和坂小学校の通学区域として誕生しました。

●校区の位置と特徴

新幹線と在来線のJR西明石駅の東に位置し、国道2号線や鳥羽中央線、山手環状線が通る交通の便が良い地域ですが、昔からの農地が残り、公園も鳥羽家浦公園や鳥羽大東公園など11ヶ所に点在する、住宅中心の比較的落ち着いた街並みになっています。

●まちづくり協議会構成団体等

和坂校区まちづくり協議会は、新和坂自治会、和坂自治会、中和坂自治会、ハイレジデンス西明石自治会、西明石町連合自治会、西明石東町自治会、旭が丘自治会、鳥羽町内会、アメニティコート西明石自治会の9自治会・町内会と、学校園・PTA等で構成しています。

●校区内公的施設一覧

No.	名称
1	明石市立和坂小学校
2	明石市立和坂幼稚園
3	社会福祉法人和坂福祉会 和坂保育園
4	和坂小学校区コミュニティー・センター
5	鳥羽厚生館
6	和坂公民館
7	中和坂公民館
8	西明石町公民館
9	西明石東町町集会所
10	鳥羽公民館
11	シャルマンコーポ明石ふれあいセンター
12	ハイレジデンス西明石集会所
13	アメニティコート西明石集会所

●校区内都市公園一覧

No.	名称	所在地	設置年月日
1	和坂サンゴジュ公園	和坂1丁目904番49	1978.1.23
2	西明石町1丁目公園	西明石町1丁目1番69	1985.3.31
3	花園1号公園	西明石町3丁目827番233	1964.4.1
4	花園2号公園	西明石町2丁目827番26	1964.4.1
5	花園3号公園	西明石町4丁目827番598	1964.4.1
6	鳥羽サクラ公園	西明石東町3番10	1979.1.29
7	鳥羽大東公園	西明石東町8	1990.3.31
8	鳥羽クスノキ公園	野々上1丁目7番10	1981.3.30
9	鳥羽家浦公園	野々上1丁目15	1986.3.31
10	新幹線鳥羽公園	野々上1丁目15地先	1977.3.31
11	和坂南公園	和坂字高町208番9	1998.3.31



●校区の面積・人口構成

面積0.576km²、世帯数3,674戸、人口7,705人(平成28年4月現在)となっています。
 年齢別人口では、19歳以下が1,111人(14.4%)、65歳以上2,248人(29.2%)と、高齢者数が19歳以下の青少年数の2倍以上となり、少子高齢化が非常に進んでいます。
 10年前との比較では、人口総数は減少していますが、世帯数は単身世帯の増加などで増えています。
 年齢別では、青少年や就労年代人数は減少し、高齢者は増加の一途を辿っています。

校区世帯数 性別・年齢別人口の推移



歴史・沿革



↑播磨名所巡覧図絵より 和坂・坂上寺

西暦	出来事	出来事
1907年	唐熊山に和坂斎場(火葬)場を開設	
1919年	明石市役所 創立	
1930年	明石操車場 創立	
1937年	川崎航空機 明石工場 創立	
1945年	明石大空襲被害	明石大空襲被害 明石へ最初の空襲は、川崎航空機明石工場が標的とされ、学徒勤労報国隊や女子挺身隊が動員されており、この空襲で犠牲者を出した。又、和坂に寮などがあり、被害が甚大であった。
1946年	省線 西明石駅 開設	
1951年	明石市バス車庫 開設	
1970年	新住居表示で、和坂(わさか)となる	
1972年	新幹線 西明石駅 開設	
1984年	和坂小学校 開設	
2013年	あかし斎場 旅立ちの丘 使用開始	わさカーニ 誕生

●「わさカーニ」の誕生

平成25年、和坂小学校と和坂幼稚園の創立30周年を記念して、和坂校区のマスコットキャラクター「わさカーニ」が誕生しました。

地域の蟹伝説と共に、幼稚園の親子がデザインし、小学生がネーミングをしました。

その後、着ぐるみも制作され、行事などに参加して好評を博しています。



●和坂～大蟹伝説のあるまち～

昔、校区の南東部にある「坂上寺」の山裾を縫う道(西国街道)は、険しい坂でした。①

平安時代の初め、この深い雑木林に一匹の古狐が棲んでいて、夜な夜な蟹の面を被り、道行く人々を襲っていたそうです。その頃、この坂の下に「二つ池」という大池があり、この中にある大きな岩に巨大な蟹が棲んでいました。大蟹は、古狐の悪行に怒り、戦って勝ったのですが、今度は大蟹が驕り、この坂を行き交う人々を襲い始めたそうです。

そこへ諸国を巡礼していた「弘法大師」が蟹に苦しんでいる人々の事を聞き、この大蟹の心を和らげ、岩に封じ込めたそうです。この後、人々は穏やかに過ごす事ができるようになり、以来、弘法大師が封じ込めた岩を「蟹塚」②と呼ぶようになったそうです。

現在、かつての「二つ池」は埋め立てられ、明石市の浄水場などになっています。

この近くの「大道サクラ公園」の南道沿いに「蟹塚」の碑が建てられています。



●「和坂」の地名よみ名 諸説

①「播州証記録」…1617年、明石藩ができた時に、蟹の字を「和」に変えたとある。

②「播州輿地考」…和坂には上和坂と下和坂があり、上和坂がいつしか「かにかがさか」となったと説いている。

③「播州名所巡覧図絵」…「和坂村、王子札場より八丁余りにて、此間を横小路という故、蟹が坂といふなるべし。」とあり、横に歩くことから蟹の字を当てられたとしている。

●現在の地名

明石市林崎町の大字として和坂(かにかがさか)の名が残っていたが、難読なため、昭和45年の住居表示で、和坂(かにかがさか)、和坂(わさか)、和坂(わさか)1～3丁目、和坂(わさか)稲荷となりました。

●祖先の苦難と偉業の証 林崎堀割疎水

江戸時代、干ばつで苦しんでいた明石藩林崎の6村(和坂、鳥羽、林、東松江、西松江、藤江)が相談のうえ、和坂村の大庄屋・伊藤次郎左衛門、甲谷五郎兵衛、伊藤傳兵衛らが計画し、1657年に藩主、松平忠国の許可を得、工事を行った。

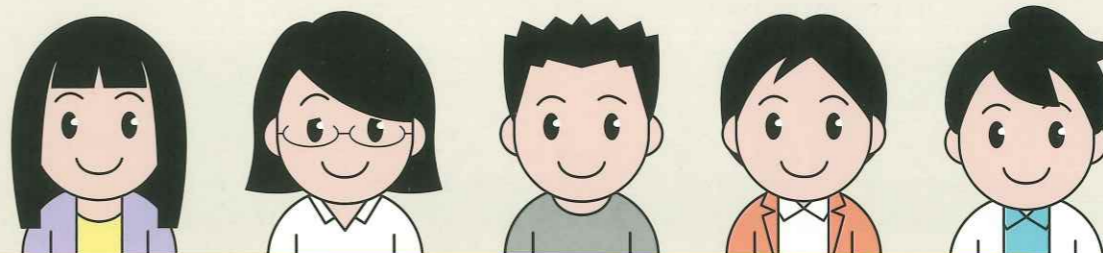
明石川の水を引くため、上流の西戸田村から川の西側沿いに「野々池」北側まで、溝幅1.5尺、長さ5,374尺の灌漑用水路を開削するもので、和坂村の山崎宗左衛門が測量を行い、1657年秋に着工、翌1658年春(農閑期に工事を行っている)に完成した。

これにより野々池から下の用水の不安が減少し、その後、新田開発が進み、農地が増えていった。



※林崎堀割渠記碑

組織図



和坂校区まちづくり協議会

(構成員) 和坂校区全ての住民・各種団体・事業所など

本会の活動目的に賛同する住民、自治会・町内会、各種団体及び事業所の代表者

まちづくり推進委員

継続的に課題の解決に取り組む体制

生活・安全部

- ・各自治会
- ・消防団西明石班
- ・野々池中PTA
- ・和坂幼稚園PTA

環境・衛生部

- ・各自治会

健康・福祉部

- ・各自治会
- ・ボランティア和の会
- ・高年クラブ
- ・主任児童委員
- ・民生児童委員

文化・交流部

- ・各自治会
- ・ボランティアわさか
- ・子ども会
- ・和坂農会
- ・スポーツクラブ和坂21
- ・和坂保育園父母の会
- ・スポーツ推進員
- ・コミセン
- ・和坂小PTA

広報部

※部は変化、追加していくものです。

全体で取り組む行事で設置

実行委員会

まち協の方向性を決める中心的な役割

役員会

まち協の最高決定機関

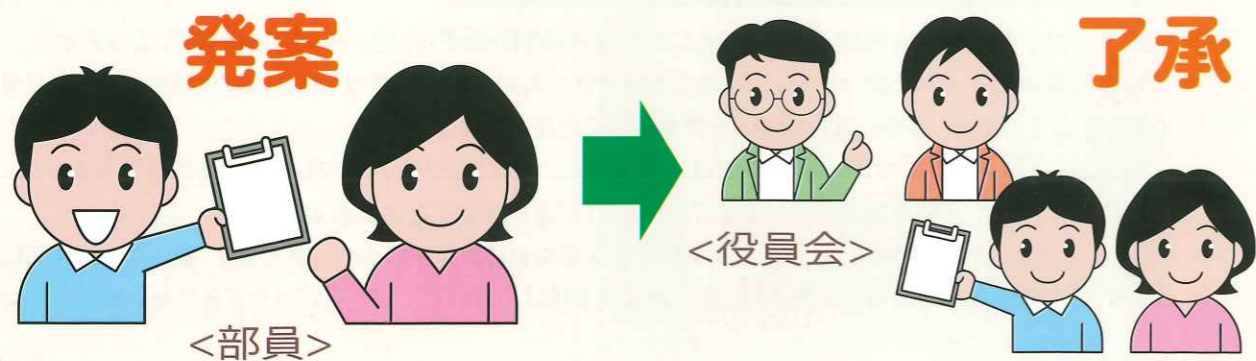
総会

事務局

(役員)

会長	1名
副会長	2名
幹事	若干名
部長	5名
事務局長	1名
会計	1名
会計監査	2名

●活動イメージ



ビジョン図

この「ビジョン」は、地域住民の皆さんの思いを集め、長期的な視点に立ち、和坂校区の目指す将来像（目標）をまとめました。

- ビジョン -

あなたとわたしで創る、住み続けたいまち和坂
～笑顔と希望のあふれる我がまちへ～

生活・安全部

これまでの事業

- ・防災訓練
- ・年末警戒パトロール
- ・青パト活動
- ・オレンジキャップ

基本方針

明るく住みよいまちづくり

施策・事業は 12 ページ

環境・衛生部

これまでの事業

- ・ポイ捨て防止
- ・クリーン作戦
- ・精霊流し
- ・ごみ減量
- ・情報交換

基本方針

清潔・美しさを誇るまちづくり

施策・事業は 13 ページ

健康・福祉部

これまでの事業

- ・敬老会
- ・校区健診

基本方針

誰もが健康で暮らせる
「みんなで支え合う」まちづくり

施策・事業は 14 ページ

文化・交流部

これまでの事業

- ・納涼祭
- ・左義長

基本方針

誰もが集える元気なまちづくり

施策・事業は 15 ページ

広報部

これまでの事業

- ・わくわくわさか
- ・行事記録

基本方針

広報を通じて住民がふれ合う
豊かなまちづくり

施策・事業は 16 ページ

次のページからは、これからどのような事業を行い、各部の基本方針を基にビジョンを目指すのか、その事業を紹介していきます。



生活・安全部

基本方針

『明るく住みよいまちづくり』

子どもたち、勤労世帯、高齢者（3世代）のみんなが安心して住み続けられる、明るく安全なまちづくりを目指します。

施策	事業
犯罪のない安全・安心な環境整備の推進	犯罪パトロール / 門灯の点灯実施運動 / 安全・安心の講習会 / 近所の声掛け運動 / 年末警戒パトロール
交通ルール・マナー向上の推進	自転車のマナーアップ講習 / 交通ルールの講習
子どもの安全対策の推進	通学路点検 / 子どもの見守り活動 / 青パト活動 / 子どもの居場所・遊べる場所づくり
災害に強いまちづくり	防災訓練 / ハザードマップの充実 / 災害情報の共有

※施策毎の事業内容は当部で事前調査をし、行事や講習会等企画書を作成致します。

具体的な事例ごとに、部員で調査を行い、報告書や地図を作成します。

事業はまちづくり協議会に諮り、自治会、町内会、各種団体と高年クラブ、子ども会にもご協力を頂きながら進めて行きます。



子ども見守り活動



子ども見守り活動

環境・衛生部

基本方針

『清潔・美しさを誇るまちづくり』

みんなで守るルールとマナー、より良い環境を目指します。

施策	事業
ペットマナーの改善	ペットマナーたすき運動 / ペット飼い主マナー研修 / 猫のえさやり防止運動
ごみマナー改善の推進	ごみ捨て場の清掃運動 / ごみ捨て置き場の点検 / 不法投棄の防止運動 / 啓発ポスターの設置 / リサイクル啓発運動 / 精霊流し
緑化運動の推進	校区内花いっぱい運動 / 定期的な公園の清掃
環境改善意識高揚の推進	トイレマップの制作 / ポイ捨て防止運動 / 自治会・町内会環境部員等合同研究会

※ここにある事業は、全てまちづくり協議会だけで実施する事業ではありません。
各単位自治会・町内会、各種団体等との役割分担をしながら進める計画です。



ポイ捨て防止活動



ポイ捨て防止活動

健康・福祉部

基本方針

『誰もが健康で暮らせる「みんなで支え合う」まちづくり』

地域のすべての住民が健康な生活を送れるよう、みんなで支え合う地域福祉の充実したまちづくりを目指します。

施策	事業
健康づくりの推進	定期健診 / 健康測定 / 健康体操 / ラジオ体操 / ハイキング、スポーツの振興
交流の場づくりの推進	敬老会の開催 / ふれあいサロン / 異世代交流活動 / 高齢者サークル活動
見守り活動の推進	地域での見守り活動の推進 / 災害時要支援者見守り活動の支援 / ふれあい訪問 / 声かけ運動
日常生活手助けの推進	高齢者・障害者の日常生活の手助け / 相談受付 / コーディネート

※施策の事業例は、各单位自治会・町内会、各種団体と役割分担をしながら、今後長期的な視野で順次可能なところから取り組む目標です。



健康体操で健康づくり



高齢者の心が和む児童からのメッセージ

文化・交流部

基本方針

『誰もが集える元気なまちづくり』

いろいろな行事やみんなの力を出し合う集いなどを行い、楽しく和気あいあいとした仲間となるまちづくりを目指します。

施策	事業
あいさつ運動の推進	住民あいさつ運動 / あいさつ運動強化週間の設定
伝統行事の継承	左義長・もちつき大会
世代間交流	納涼祭 / 住民主体の演劇会 / 伝承遊び / オープンカフェ / 子育てサークル / 将棋等の大会
地域活性化	物産展 / 文化作品展 / 人材バンク
スポーツの推進	住民運動会 / トライアルスポーツ / 住民体力測定 / スポーツクラブ和坂21の推進

※ここにある事業は、全てまちづくり協議会だけで実施する事業ではありません。
各単位自治会・町内会、各種団体等との役割分担をしながら進める計画です。



もちつき大会



左義長の催し

広報部

基本方針

『広報を通して住民がふれ合う豊かなまちづくり』

こんなことしてるよ!こんなことするよ!
皆さんが楽しく集えるまちづくりを応援します。

施策	事業
ネットワークの構築	ホームページの運営 / フェイスブックの配信
広報紙の発行	わくわくわさかの発行
情報収集の推進	各種団体の情報収集 / 自治会・町内会の情報収集

※ここにある事業は、全てまちづくり協議会だけで実施する事業ではありません。
各单位自治会・町内会、各種団体等との役割分担をしながら進める計画です。



わくわくわさか



広報紙編集会議



～和坂のまちづくり今昔ものがたり～

このたび、和坂のあたらしいまちづくりが始まりました。そこで、村の古老(?)などに集まっていただき、和坂の今昔、まちづくりへの取り組みの事情、などを勝手気ままに話し合っていました。

話のすべてを載せたいのですが、年寄りの話は長いので、およそこんな話だったということで、おおまかに、まちのようすの移り変わりを知っていただこうと思います。

メンバーは、茶谷さん、入江さん、藤澤さん、船津さん、中川さんの五名です。

大半は、この地に生まれ、戦後の厳しい時代に子どもの頃を育ち、長じては自治会連合協議会の運営、新しいまちづくりなどに力を尽くして来られた方々です。

「まち」の意識は、その地政学的な条件によって生まれます。この地は、北に玉津村、南に林崎村に挟まれ、山陽道(旧西国街道)・JR(旧省線)の北に大池(現西明石町一帯)がありました。この大池を挟んで北に鳥羽の大きな集落、南の山陽道沿いに和坂があったのです。後は広々とした田んぼと、この地方特有の大小さまざまな溜池ばかりで、山は唐熊山(現和坂斎場)くらいでした。牧歌的な自然の中での日々の営み、寺社を心の支えとし、集落の人々との交流の中で、穏やかな「まち」の暮らしがあったのです。

播州平野を特徴付ける溜池。話し手のみなさんの子どもの頃も、ここに繋がります。今は、谷池が残るばかりですが、その何倍もあった大池を始め、この



地の周辺には大小十以上の溜池がありました。

「大池などで、子どものころに泳ぎを覚えたもんです」

「谷池は意外に深みがあって、おぼれてしまったこともあったよ」

「蓮池などで、菱の実を採って、茹でて食べたもんだ」

「学校帰りに七人ほどで、小船に乗って遊んでいたら、船がひっくりかえって、みんな投げ出された。後で、一人亡くなったと聞かされたこともあったよ」

「泳ぎもしたし、鮒などの魚も取れて、いい遊び場だったね」

「泳ぎもしたし、鮒などの魚も取れて、いい遊び場だったね」

「泳ぎもしたし、鮒などの魚も取れて、いい遊び場だったね」

「泳ぎもしたし、鮒などの魚も取れて、いい遊び場だったね」

「泳ぎもしたし、鮒などの魚も取れて、いい遊び場だったね」

「泳ぎもしたし、鮒などの魚も取れて、いい遊び場だったね」

「泳ぎもしたし、鮒などの魚も取れて、いい遊び場だったね」

「泳ぎもしたし、鮒などの魚も取れて、いい遊び場だったね」

「泳ぎもしたし、鮒などの魚も取れて、いい遊び場だったね」

溜池が姿を消し、家屋が増え、人も多くなると、「まち」の様子も大きく変わっていきます。そのきっかけは、省線・川崎航空機明石工場などの設置にありました。また、小学校・中学校の学区の変更が「まち」のあり方の変化に大きく関わってきます。

「1930年に明石操車場が出来て、国鉄の職員官舎がずらりと並んでいたな」

「1937年には川崎航空機の明石工場が出来て、長い滑走路もあるし、職員・工具住宅がたくさんあった。和坂にも寮などがあったよ」

「だから、戦中には川崎が標的にされて、4回の空襲があり、1560人が亡くなり、1万1千戸が焼けたということだ」

「犠牲者を唐熊山で積み上げて、火葬にしたなんて話も聞いたことがある」

「戦後は川崎の跡地は畑になっていた。林崎海岸に泳ぎに行くときには、その畑のスイカやきゅうりなどを取って行ったりしたもんだ」

「中学では、林崎海岸で、2km、4kmの遠泳があったな」

地形図(大正8年)



この頃、中学は望海中学一校のみ、小学校は林と鳥羽の二校のみであった。

「望海中に間借りしていて、林小に移るときは、みんな自分で机・椅子を運んだな」

「跨線橋から北を見ると、大きな建物

は鳥羽小が見えた。その鳥羽小からは、海まで一望できたもんだ」

家屋が増え、人が増えると、町並みも変わっていきます。

「西明石町(1970年)以前には、花園住宅があって、花園商店街なんかも

あって、賑わってたもんだ。いまはすっかり名残りもなくなってしまった」

そして、中学校は野々池中が設けられ、鳥羽小は沢池小、和坂小に分かれました。

最後に、あたらしいまちづくりについて、出席者の方々の一言ずつで締めくくります。

・入江さん
最初の頃は、自治会などから「なんで急いでせなあかんのや。今の連合協議会で十分にできるんやないか」というような声がありました。進めていく中で理解してもらえないということが、一つの大きな問題でした。だけどそれをなんとかやらなあかんのや!というのを色々な会議や方法を変えながら説明していったんです。その中で〈企画部〉や〈わくわくわさか〉の存在が大きかったですね。

・船津さん
私としては今、まちづくりを行わなければいけないのか、必要に迫られているのか、というところはまだ疑問に感じています。だけど、現実的に市からの補助金を活用したい。活用するのであれば計画書を作りましょう。と割り切って考えるようになりました。何回も会議を重ねていますし、作るのであれば立派なものを作りたいと思っています。

・中川さん
企画部の立ち上げの初めに、茶谷会長が「何もしない」という選択肢もあるよ。という発言に度肝を抜かれました。その言葉で気楽に参加することができましたね。

・藤澤さん
私も連合協議会で十分に機能しているのに、わざわざなくてもいいんじゃないかと思うこともありました。大きさに言えば地方創生、行政も変わらないといけないと思いますし、我々も何らかの形で新しい歴史を作っていかなければならないと思うようになりました。

・茶谷さん
この1年、32回にわたる企画部の会議を行ってきましたが、皆さんの協力を得て協議会の立ち上げに着々と近づいていると感じていました。これからも色々な方々に参加してもらいたいような会になってほしいです。

●この計画書は企画部メンバーのご協力により制作しました。 ※敬称略 五十音順

入江 俊勝	上住 久美子	久保 登喜子	櫻井 孜	宿院 真由美
茶谷 紀元	中川 俊二	仲宗根 貴彦	林谷 全晃	林谷 充加
廣原 喜久雄	藤澤 紀六	船津 憲二	安田 政義	吉嶺 良則



平成29年5月 発行
和坂校区まちづくり協議会